

< 9月第1例会報告 >

書記 杉本隆人



- ・日時：2018年9月20日（木）
19：00～20：30
- ・場所：西神戸YMCA（学園都市）

～ 難病と闘う子とともに ～

講師：山本智子氏

9月第1例会は、公開例会としてYMCA館内だけの案内にもかかわらず、外部から常連組となりつつあるご夫婦を含めて8人の参加者があり、にぎやかな例会となりました。

筋肉が骨に変わっていくという難病（FOP）を持つ山本育海さん（通称いっくん）のお母様のお話です。いっくんのお母さんとは何度となくお話する機会があり、是非、我がクラブでもご紹介して下さいとお願いした事が実現した例会となりました。

決して楽しいお話ではありませんが、このような難病を治す薬もない中で、iPS細胞を活用して新薬を研究開発するために、大きなリスクがある中で自分の細胞を採取・提供することを勇気を持って挑んだとのこと。この話を聞いたときは、本当に凄いなと感心させられました。

我々がより広く理解し易いように、マスコミが取材・制作・放映したDVDを2本ほど拝見した後に、山本智子（いっくんのお母さん）さんに自分の体験を語っていただきました。とても現実には厳しいものであり、精神的にも、経済的にも追い詰められるくぐり身は詰まされる思いでした。

また、自分のためだけでなく、広く難病の方々を支援する募金活動を立ち上げておられ、育海（いっくん）君の語呂合わせでの193募金というキャンペーンを行っておられることを紹介していただきました。

支援先は、京都大学の山中教授らが活動しているiPS細胞研究所へ（写真参考）



1930円(いっくんおーえん)募金

**「iPS細胞研究基金」
ご寄付のお願い**

難病研究基金として活動しているiPS細胞研究基金は、山本智子さんと山本育海さん（いっくん）の母と子で、難病と闘う子とともに活動しています。是非、我がクラブでもご紹介して下さいとお願いした事が実現した例会となりました。

山本智子 育海、iPS細胞研究基金を支援し、難病研究に貢献し、山本智子さんと山本育海さん（いっくん）の母と子で、難病と闘う子とともに活動しています。是非、我がクラブでもご紹介して下さいとお願いした事が実現した例会となりました。

僕と一緒に、iPS細胞研究所を応援してください！
こちらの募金は毎年12月14日に、全額iPS細胞研究所に寄附させていただきます。
下記、専用口座にお振込み頂くか、FOP 明石専用振込用紙にて、直接「研究基金」にお振込みください。

1930円募金専用 振込口座

神戸信用金庫 魚住支店
口座番号 0091286
口座名義 エフオーピーアカシ

*H29年度は、1年間で280万円の1930円募金を寄付出来ました。
ありがとうございます！

戸田教授 山本育海 山中教授 池谷准教授

- ・出席者：佐伯、杉本、達、田辺、中村、野呂、藤井（信）
- ・ゲスト：山本智子、他8名
- ・ビジター：郡美恵子（神戸ポ）、渡辺大輔（東京武蔵野多摩）

<10月事務例会報告>

会計 佐伯一丸



- ・日時：2018年10月4日（木）
19：00～21：00
- ・場所：西神戸YMCA
- ・出席者：佐伯、館、達、田辺、丹家、中村、野呂、藤井（信）、藤井（久）、メネット：なし

1. 報告事項

- (1) 西日本区大会&東日本区大会チラシ 配布
- (2) 六甲部会（9/22土）参加者：佐伯、杉本、館、達、田辺、中村、野呂、藤井（信）、藤井（久）
- (3) チャリラン実行委員会（10/1） 田辺（欠）

2. 協議事項

- (1) 検討委員会（部則等修正案資料参照）
- (2) 25周年記念例会：田辺会長と杉本書記が10/1（月）西神オリエンタルホテル訪問し打ち合わせ。約100人、会費7千円の案。大規模な記念例会に反対する人が多く、更に検討を要する。

- (3) ファンドじゃがいも 100 箱、10/19、13 時搬入
- (4) DBC 交流会：岡山地方の豪雨災害により延期の要望が岡山クラブよりあり、延期する。

- ・福井での懇親会 時期？

- (5) 今後の例会予定（年間計画表参照）

- ・10月20日（土）ワイワイまつり
 - 18日13：00時消耗品購入、
 - 19日9：30準備；洗米・用具の洗浄
- ・11月3日（土）チャリティーラン
 - 1日13：00 食材・フードバックなど買出し
 - 2日10：00準備（洗米、浸漬、用具洗浄など）、
 - 3日8：30現地集合、
- ・11月8日（木）公開例会 卓話 関 啓子（三鷹高次脳機能障害研究所所長）
 - 「伝えたい、脳卒中とその後遺症」
- ・12月8日（土）クリスマス会
- ・1月 新年例会 日時、場所？
- ・2月 アンガーコントロール（公開例会）？
- ・3月16日（土）学園都市クラブ25周年記念例会 演奏 河合久美子（京都ウエストクラブ）、吉田由美（大阪なかのしまクラブ）
 - 上記・協議事項（2）の通り、今後さらに検討を要する。

3. 今後の西日本区・六甲部行事予定

- ◎ 中部会 10/6(土) 12：30～ アイリス愛知 ¥10,000
- ◎ 瀬戸山陰部会 10/7(日) 15：00～ 夢乃井 ¥15,000
- ◎ 京都キャピタル35周年 11/3（土）17：00～ ウェスティン都H ¥10,000 10/15メ切
- ◎ びわこ部会 11/4(日) 10：00～15：00 草津市立まちづくりセンター ¥8,000
- ◎ 大阪クラブ90周年記念例会 11/10(土) 大阪YMCA ¥6,000 10/15メ切
- ◎ 神戸学園都市クラブ25周年 3/16（土）西神オリエンタルH

4. その他

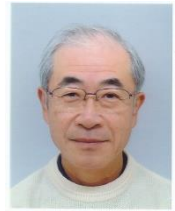
- (1) YMCA 達氏より下記要望がだされ、両方とも了承された。

- ・バザー協賛金として、クリアファイル作成費 ¥39,600.-の中、¥29,600円をお願いしたい。
- ・チャリティーランの高等学院へのGラン支援金 ¥5,000.-をお願いしたい。

- (2) 11月の事務例会を1日（木）19：00～に行う。

「フランス・ルルドからピレネー山脈を超えて サンチャゴ・デ・コンポステーラへ2大聖地を訪ねて10日間」(第3回)

丹家元陽 ワイズ



7月19日(水)

気温 19℃。朝シャン後、バスは西へ約 100Km。海沿いの街 Bilbao へ。

この途中にあるゲルニカに行けなかったのは少し残念。

このビルバオで有名なのが、ビスカヤ橋。河口近くにある為、船の通行の邪魔にならないようにと兩岸に2本の鉄塔を建て高さ45mの橋桁からロープでゴンドラを吊り、約160mの川巾をひっきりなしに往復する。車数台と人なら約200人は乗せられるという市民の足。これを1893年に造り、今は世界遺産。勿論一番頂上へはエレベーターで上り、歩行でき眺め抜群。足元から下がすけて見えるが全く怖くない。€5。

そしてビルバオはビスケー湾に向かって開けており、鉄鋼、造船の街として栄えたが、その後不況になり、なんとかせねばと考えてアートに注目。

1997年造船所跡地にニューヨークの別館として前衛的な外観のグッゲンハイム美術館を建てた。美術館前広場には巨大な「パピー(子犬)」の像高さ12mが置かれ、その表面はカラフルな花が植え付けられ年2回衣替えするとの話。水は中から散水している。又、周辺には巨大なクモとか、霧を使ったオブジェ(日本人作)とかのアートが点在。建物の中は3つのフロアがあり、常設の木で造られた迷路の巨大なものや、モネの水蓮、ロートレックの数点とか馴染みの作品もあり、1日では回りきれない。

今日は少し遅めの昼食。まずはビールで喉を洗い、前菜はたっぷりのサラダ。レタス、玉ネギ、セロリ、トマトにツナ、ゆで玉子、アンチョビが入り、オリーブオイルのドレッシングで頂く。次にジャガイモのスライス、玉ネギを炒め、玉子でとじた家庭風オムレツ。これが我々の舌に合って大好評。メインはメルルーサのソテー、ベイクドポテト添え。アルコールがフリーだったのか赤ワインが次から次へ、19人で10本以上。さすがにベテランのウェ이터さんが、しきりに両手を下へ下へ。飲みすぎなので抑えて抑えてのジェスチャー。デザートはバニラクリーム、シナモンパウダー掛けでやっとならぬ。

バスは緑豊かな大地、そしてカンタブリア山脈を走る事230Km、約3時間でカンガス・デ・オニスのパラドール(古い修道院や教会を改装したホテル)へ。川沿いの道からはカヌーを楽しむ人達の姿が。修道院を改装したホテルで、地下にはローマ時代の遺跡の一部も。夕食はゆったりとしたレストランで参加者のグループ毎に。前菜はカボチャのクリームスープで体が温まる。外の気温15℃。メインはイベリコ豚の頬肉をほぐして固めてある。4

×4×20cm位の長方形。ポテトソースがかかっているホロホロとくずれる柔らかさでジワッとした食感が美味。しかし量が多くてさすがに1/3は残してしまった。家だったら冷蔵庫に入れ、翌日も楽しめたのにと残念！デザートはバニラ、チョコレート、コーヒーアイスの上に大量のメレンゲが。失礼ながらメレンゲを押しつけて下のアイスクリームだけを頂いた。勿論、ビールとワインは欠かせない。

7月20日(木)

今朝は霧雨、15℃。例のごとく朝シャンの朝食後、バスへ。その時年配の御主人が「イヤホンガイドを忘れた」と言ってホテルの部屋へ。しばらくしてイヤホンガイドを首にかけて戻って来られて「やっぱり、ない」。「あなた、首に掛っているじゃないの！」で大爆笑。今日も楽しい1日になりそう。更に西へ180Km、約3時間。緑の山々がトンネルを抜けると岩山に、16℃。

Leon 着。標高 800m。10～12 世紀に栄えた旧レオン王国の首都で、北の大西洋からアンダルシアのセビーリャまで全長 800Km の「銀の道」と、サンチャゴ・デ・コンポステーラに行く巡礼路の交差点。そして統合スペインの元となった街。

まずは昼食。前菜はグリーンピース、人参、ブロッコリーを卵で固めたブロック状のテリーヌ。あっさり味でスーッと入る。メインは鱈のナバラ風ソテー(オリーブ味)、生野菜添え。デザートはピーチパイで大満足。ビールとCava は、はずせない。ここで又、例の夫婦のハプニングが。レストランを出てしばらく歩いていると、ご主人が「アッ帽子を忘れた。」と言って、再度レストランへ。帰って来られて「やっぱりなかった。」ふと見ると、奥さんの頭の上

には男物の帽子があり、手には女物の帽子を持っておられる。「その頭の上の帽子、御主人のじゃない？」御主人「全く、頭にくるなあー」で大爆笑、2 回目。

さて、市内観光の最初はカサ・デ・ロス・ボティーネス。ガウディの設計としては、おとなしい感じで今は博物館として使われていて、その前の広場のベンチではガウディさんが読書をしている。次はサン・インドロ教会。11 世紀に着工しレオン王国の一族が眠っているパンテオンは「ロマネスク美術のシスティーナ礼拝堂」とも呼ばれ、天井のフレスコ画が見事。

そしてカテドラルへ入場。13世紀から14世紀に造られたゴシック様式の大聖堂。100 枚以上のステンドグラスが太陽の光の当たり具合によって色合いが刻々と変化し、美しいの一言。

ここで解散し、夕食までは自由時間。頂いた地図を頼りにホテルまでブラブラと街を散策。そろそろ土産物を捜さないと、と近くのスーパーへ下見。このホテルはサン・マルコス修道院に併設されたパラドール・デ・レオンで天井も高く、石造りの荘厳な構えで大きく広い。

夕食はホテルのレストランで。豚と牛の生ハムが冷たいビールに合う。前菜はミックスベジタブル(ズッキーニ、人参、マッシュルーム、蕪、三度豆、カリフラワー、ハム)ネギクリーム和え。非常に胃に易しい。メインにはアンコウとエビの串焼き、塩とコショウの具合も見事。これに当地の白ワインと赤ワインがスーッとすべり込んでいく。これは本当に危険なワイン！デザートはフルーツポンチ(キウイ、メロン、スイカ、パイナップル)の上にかaramelアイスとストロベリーアイスが乗っていて、最後を締めくくってくれる。(次号に続く)

< 今月の詩 >

おまえを大切に 摘んでゆく人がいた
臭いといわれ
きらわれ者の おまえだったけれど
道の隅で歩く人の足許を見上げ
ひっそりと生きていた
いつかおまえを必要とする人が
現れるのを待っていたかのように
おまえの花
白い十字架に似ていた

星野富弘 (1946～)

詩画作家。中学の体育教諭だった24歳の時、部活指導中の事故で頸髄を損傷し、首から下の自由を失う。入院中に口に筆をくわえて詩画をかき始め、退院後本格的な作家生活に入る。群馬県みどり市に富弘美術館がある。詩画集に「鈴の鳴る道」「新編 風の旅」「あの時から空がかわった」「足で歩いた頃のこと」他多数、自伝に「新版 愛、深き淵より」他がある。素朴な優しさがあふれる詩画は感動を呼び、全国で開催される「花の詩画展」には、毎年多くの人が足を運ぶ。

～「ポケットのなかの祈り」いのちのことば社フォレストブックスより～